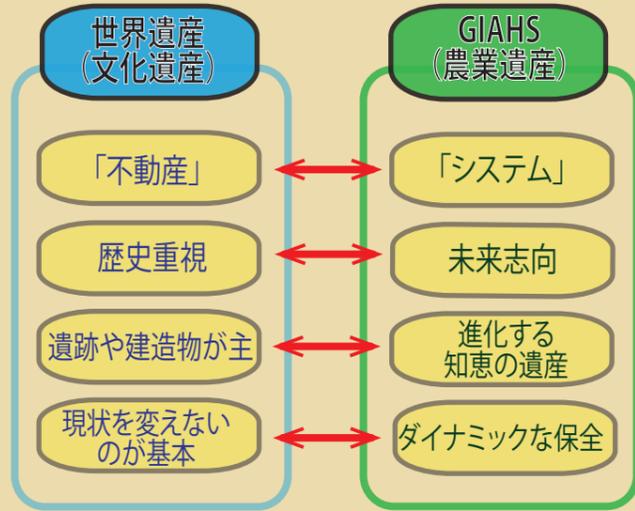


FAOによる世界農業遺産の認定基準



ユネスコの世界遺産とFAOの世界農業遺産の違い(イメージ)



世界農業遺産

Globally Important Agricultural Heritage Systems (GIAHS)



「静岡の茶草葉農法」日本静岡県掛川市東山地区

世界農業遺産Q&A

Q: 世界農業遺産の定義は?

「コミュニティとその環境及び持続可能な発展のためのニーズと願望との共適応から進化した、世界的に重要な生物多様性の豊富な卓越した土地利用システム及び景観」(FAO, 2002の和訳)

Q: 申請方法は?

FAOの認定申請に当たって農林水産省の承認が必要とされており、農林水産省が定期的に承認を希望する地域を受け付け。手続きの詳細については：
<http://www.maff.go.jp/j/nousin/kantai/giahs3.html>

Q: 認定のスケジュールは?

FAOが申請書を受理した後、現地調査を経て、科学委員会のメンバーによる評価、内部審査を行い、原則的には2年に一度開催される国際運営委員会で決定

Q: 認定されると何か補助が出るの?

都道府県や農林水産省などではすでにさまざまな補助事業などが用意されており、これらの事業を地域の農業・農村振興にどのように活用するかは、世界農業遺産認定の有無にかかわらず重要

Q: 認定されると農法などに制限が加えられるの?

世界農業遺産には農法などの制限はないが、生物多様性を著しく減少させないことが重要。環境保全型農業は世界の大きな流れで、消費者のニーズもあり、農産物には、世界農業遺産による大きな付加価値が期待

Q: 認定されたら、何をすればいいの?

認定を契機に、世界農業遺産の「アクションプラン」*に基づいて、農業・農村振興施策の推進を加速、着実に実行するとともに、全国的な視点、国際的な視点をもって、関係者間の連携を強化し、日本と世界のモデルとなる取組を推進
(*「アクションプラン」とは、地域の多様な関係者によりまとめられた、世界農業遺産の保全と持続的な利用のための具体的な活動計画)

世界農業遺産(GIAHS)とは

正式にはGlobally Important Agricultural Heritage Systems (GIAHS(ジアス))といいます。国際連合食糧農業機関(FAO、本部イタリア・ローマ)が2002年に開始した仕組みで、次世代に受け継がれるべき重要な伝統的農業・農法(林業、水産業を含む)や生物多様性、伝統知識、農村文化、農業景観などを全体として認定し、その保全と持続的な活用を図るものです。

世界農業遺産は、「過去の遺産」ではなく、さまざまな環境の変化に適応しながら進化を続ける「生きている遺産」と言われています。これまでに世界で31のサイトが認定されており、それぞれ地域固有の取組が行われています。日本でも2011年に先進国として初めて佐渡と能登が、2013年には静岡、阿蘇、国東が新たに認定され、現在、国内では、5地域(サイト)が認定されています。

国連大学と世界農業遺産

国連大学では、世界各地での農業の多様性(agrodiversity)の研究成果をもとに、世界農業遺産の発足当初からFAOに協力してきました。日本に本部のある国連大学は、日本の「里山」にいち早く着目し、関係者に世界農業遺産への認定を提案しました。佐渡と能登をはじめ国内外の世界農業遺産の申請に助言するとともに、日本ではFAOへの申請に際して推薦も行ってきました。

国連大学では、2012年8月から、農林水産省の農林水産政策科学研究委託事業により、「日本に

おける独創的な農文化システムの総合的な評価手法の開発に関する研究」に取り組んでいます。これは、先進国・日本の実情も踏まえて、①変化に対するレジリエンスの強化、②多様な主体の参加による自主的な取組、③トータルな6次産業化を通じた地域活性化を、農文化システムの評価の基準に取り入れようとするもので、世界農業遺産の評価にも活用できると考えています。国連大学は、学術研究面を中心に、アジアをはじめ世界全体の世界農業遺産の発展に貢献しています。



UNU-IAS

Institute for the Advanced Study of Sustainability

国連大学
サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)
〒150-8925 東京都渋谷区神宮前5-53-70
Tel: +81-(0)3-5467-1212
Fax: +81-(0)3-3499-2828
Email: nagata@unu.edu (永田明)
Website: ias.unu.edu

Designed by Evonne Yiu イヴォーン・ユー (UNU-IAS)



GIAHSの一覧



世界農業遺産
認定サイト
全31サイト
(2014年7月現在)



1 トキと共生する佐渡の里山 日本
新潟県の佐渡地域は、金山の歴史が生み出した棚田などの水田で、冬期湛水など「生きものをはぐくむ農法」とその認証制度を推進。また、農業は、能、鬼太鼓などの農村文化の発展につながり、佐渡独特の自然、風景、文化、生物多様性を保全。



2 能登の里山里海 日本
石川県の能登地域は、美しい農村風景が見られ、棚田やため池による里山の景観と、海女漁、揚げ浜式製塩など里海の資源を活用した伝統技術を継承。また、「あえのこと」やキリコ祭りなど、農業と結びついた風習や文化が多く保全。



3 静岡の茶草場農法 日本
静岡県の掛川周辺地域は、伝統的な「茶草場農法」を実施。これは茶園の近くにあるスキなどの草原(茶草場)の乾草(茶草)を茶園の土づくり用いるもので、茶の品質を高めながら同時に半自然草地特有の生物多様性を保全。



4 阿蘇の草原の維持と持続的農業 日本
熊本県の阿蘇地域は、千年以上続く「野焼き」などの伝統的な草原の管理方法により、木が生い茂るのを防ぎながら、あか牛の飼育に必要な草資源を確保するなど持続的な農業の営みによって雄大な自然景観を維持。



5 クヌギ林とため池がつなぐ国東半島宇佐の農林水産循環 日本
大分県の国東半島宇佐地域は、日本一の本木乾しいたけ生産や、日本で唯一の水稲作とシチトウイを組み合わせた生産をはじめ、多様な農林水産業が日本最大のクヌギ林と、連携するため池群によって持続的に維持。

アジア 23 サイト

アフリカ 6 サイト

南米 2 サイト



6 イフガオの棚田 フィリピン
FAO/Lena Gubler
海拔千mの環境に耐える水稲品種と巧みなかんがい法によるイフガオ族の棚田システム



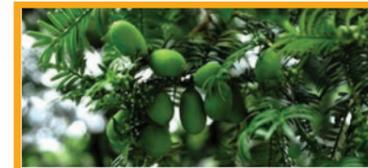
7 青山島のグドゥルジャン棚田 伝統的かんがい管理システム 韓国
Wando County
島の大きな石で給排水を同時に行える独特の暗渠を構築し、棚田をかんがいするシステム



8 濟州島の石垣農業システム 韓国
Jeju Special Self-Governing Province
畑の中の石を利用して畑の周囲を囲む風を防ぐ石垣を作り、水と土壌を保全するシステム



9 水田養魚 中国
© UNU/Liang Luohui
田魚が水田の害虫や雑草を防いだり、代替肥料、食料、収入源になる2千年前から続くシステム



10 会稽山の古代中国カヤ林 中国
People's Government of Shaoxing City
高品質な実をとるため接木の技術を用いて植栽される2千年の歴史を誇る中国カヤ林システム



11 興化の嵩上げ畑システム 中国
© UNU/Evonne Yiu
浅い湖の底の泥を積み上げて小さな島状の耕地を造成し、野菜やナタネを栽培するシステム



12 アオハンの乾燥地農業 中国
FAO/GIAHS Conservation and Management Office of Aohan (China)
アワやキビ等が栽培され、中国古代の農業と草地文化をつなぐ乾燥地域営農システム



13 宣化のぶどう栽培の都市農業遺産 中国
People's Government of Xuanhua District
1300年以上も続く特産品のぶどうが家庭の裏庭で栽培されている都市の農業システム



14 佳県の伝統的中国ナツメ園 中国
People's Government of Jiayu County
樹齢1300年以上のナツメの遺伝資源を保全しつつ、砂嵐を防ぎ、水と土壌を保全するシステム



15 福州のジャスミン・茶栽培システム 中国
People's Government of Fuzhou City
標高の違いを活かしつつお茶とジャスミンの両方を栽培するシステム



16 万年の伝統稲作 中国
© FAO/Liana John
在来種の米が栽培され、伝統的な米文化が継承されているシステム



17 トン族の稲作・養魚・養鴨 中国
© FAO/Min Qingwen
千年以上も続くトン族の水田で養魚・養鴨により多彩な農産物が生産されているシステム



18 ハニ族の棚田 中国
© FAO/Min Qingwen
森林利用と独特なかんがい方式で持続するハニ族の集落の山腰に作られた棚田システム



19 プーアルの伝統的茶農業 中国
© UNU/Liang Luohui
茶の原産地として1800年以上茶の木を養い、古代の茶道文化が継承されているシステム



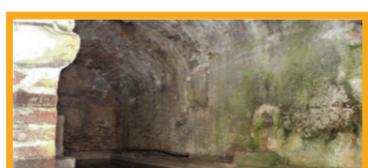
20 海拔ゼロメートル地帯に広がる水田で米等の作物を栽培しながら漁業も営むシステム インド
© M S Swaminathan Research Foundation, Government of Kerala
M S Swaminathan Research Foundation, Government of Kerala



21 コラプット伝統農業 インド
© FAO/M.S. Swaminathan
FAO/M.S. Swaminathan
多数の少数民族が原始的な農業生活を営み、多種の稲と固有植物が栽培されているシステム



22 カシミールのサフラン農業 インド
© 2001 National Geographic Society
2500年以上受け継がれ現在も、17000家族が取り組む固有のサフラン栽培システム



23 カナートかんがい農業遺産システム イラン
© FAO
乾燥地域で安定した水源を提供する紀元前800年に遡るカナートによる農業システム



24 25 マサイ族の牧畜 タンザニア・ケニア
© Arpakwa Marco Sikorei
マサイ・ダバド族により先住民に古くから伝わる慣習や伝統知識をもとに営まれる牧畜システム



26 アグロフォレストリー タンザニア
© FAO/Lena Gubler
材木用の樹木やバナナの間でコーヒーや食用作物等多様な作物が栽培されているシステム



27 28 マグリブのオアシス チュニジア・アルジェリア
© ASM Gafsa
マグリブの厳しい天候の中で何千年も続くオアシスで多様な果物や野菜を生産するシステム



29 アトラス山脈のオアシス モロッコ
© FAO/Jean Bedel
原住民のペルペル人がアトラス山脈に築いたオアシスで多様な樹木や作物を生産するシステム



30 アンデス農法 ペルー
© FAO/Alipio Canahua
海拔4千mのバレイショ畑の周りに溝を掘り、日射で水を温め、夜間に畑に流すシステム



31 チロエ農業 チリ
© CET/Carlos Venegas
先住民の主に女性の口伝えにより、約2百種の地域固有のバレイショが生産されているシステム